

海南市民病院



海南市民病院の基本理念

地域住民の生命と健康を守るため良質の医療を提供し、みんなに信頼され、愛される病院をめざします。

海南市民病院の基本方針

健全な経営管理体制のもと少子高齢化に対応し、住民が安心して予防・診断・治療・リハビリテーション及び在宅医療に至る包括的な医療サービスが受けられるよう、地域に開かれた病院事業を運営します。

1. 市民の健康保持に必要な医療の提供
2. 地域の中核病院としての医療供給体制の整備
3. 安全で良質な医療の提供
4. 経営管理体制の確立



海南市民病院は
和歌山県立医科大学より
最も近い公立病院です。

国道42号使って車で15分前後。

JR紀勢本線(きのくに線)
海南駅より徒歩10分

阪和自動車道海南インター
降りて北へ5分

医大研修と同じ生活環境で
一般病院の研修ができます。

医大などでの調べ物にも便利！

海南市民病院の概要



病床：167床(一般155床 亜急性12床))

(診療科目)

**内科, 小児科, 外科 整形外科, 泌尿器科
婦人科, 眼科, 耳鼻咽喉科, 皮膚科
麻酔科・ペインクリニック**

(常勤医師数)

**内科6名, 小児科2名, 外科4名 整形外科2名,
泌尿器科3名, 麻酔科・ペインクリニック1名**

**海南市民病院は平成25年に
新病院に生まれ変わります。**

海南市民病院内科臨床研修案内



海南市民病院内科は平成22年度より和歌山県立医科大学卒後臨床研修センターの協力型臨床研修病院に認定されております。

当院は県内では数少ない一般内科を中心にした研修プログラムを組んでおります。

海南市民病院は基本理念・基本方針に基づき、海南地域の中核病院として主に急性期医療を行っています。

また海南地域連携室を通じて地域医療機関との連携を重視し、地域医療に努めています。

最近が高齢化社会で、一人の患者様に複数の疾患が存在することが少なくありません。海南市民病院内科は、内科総合診療を中心に腎臓疾患、循環器疾患、生活習慣病、消化器疾患における専門診療を行っています。

また和歌山県立医科大学より専門医を招き、糖尿病、呼吸器・血液専門外来を行っています。

平成25年度の新病院開院以降は新しい病院での研修が可能になります。

海南市民病院内科研修の特徴

- ・ 純粋な一般内科の研修が可能である。
- ・ Common Diseaseをほぼ経験できます。
- ・ 常勤指導医の専門医資格が比較的多彩(腎臓、循環器、消化器、肝臓など)である。また他科へのコンサルトがしやすい状況である。
- ・ 1~2次(時には3次の)疾患が経験できる。
- ・ 急性期だけでなく、慢性期(退院指導)についても学べる。
- ・ コメディカルとの距離が近く、NSTなどチーム医療についても勉強できます。
- ・ 地域病院の現状を知ることができる。
- ・ 地域連携についても学べます。
- コンパクトかつ自由度は高い研修内容にできます。

1. 研修目標

将来プライマリーケアあるいは各分野における専門医を志す医師が、社会から求められている基本的な診療能力(態度・習慣、技能、知識)を習得し医療人としての人格を養うことにある。また地域における、一般公立病院の役割を理解することも目標とする。

2. 研修責任者および指導医 (2011.4～)

研修責任者	山田 陽一	院長	日本腎臓学会専門医
指導医	日比野 彰	医長	
指導医	加藤 昌秀	医長	日本消化器病学会専門医
指導医	中村 靖	医長	日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医
指導医	喜田 洋平	医長	日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医
指導医	中西 浩子	医員	日本循環器病学会専門医

3. 週間予定表(一例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
業務前	指導医とカンファレンス	指導医とカンファレンス NST勉強会	指導医とカンファレンス	指導医とカンファレンス	指導医とカンファレンス 新患カンファレンス
午前	検査・救急・病棟勤務	検査・救急・病棟勤務	検査・救急・病棟勤務	検査・救急・病棟勤務	検査・救急・病棟勤務
昼	NSTミーティング			NST回診	
午後	検査・救急・病棟勤務	検査・救急・病棟勤務	検査・救急・病棟勤務	検査・救急・病棟勤務	検査・救急・病棟勤務
業務後	指導医とカンファレンス 退院支援カンファレンス	指導医とカンファレンス	指導医とカンファレンス	指導医とカンファレンス	指導医とカンファレンス

- * 朝夕には入院担当医について指導医とのカンファレンスを持ちます。
- * 空いた時間があれば他科の検査・処置・手術の見学も可能です。
- * 当直については希望です。(一般病院の当直を理解すると将来的に役に立つと思います。)
- * 栄養サポートチーム(NST)が活動しており、月曜12時からカンファレンス、木曜12時から回診、火曜日8時から勉強会を行われております(参加自由です)。現在摂食・嚥下チームの立ち上げも始まっています。
- * 在宅医療に興味のある先生は訪問看護ステーション見学、癌化学療法に興味のある型は外来化学療法室なども経験できます。
- * 糖尿病教室や肝臓病教室など患者さん指導の現場も経験できます。

海南市民病院は、大病院でもなく、小病院でもない小回りの聞く病院です。また全体的に自由度の高い病院ですので、みなさんのやる気でいろんなことが経験できると思います。

半年あれば、病理解剖例を除く内科認定医受験の症例報告(まとめ)に必要な症例は全てそろえると思います。

研修プログラムは海南市民病院ホームページ

(<http://kainan-municipal-hospital.jp/>)

の診療科・各部門案内の内科のページから見るすることができます。

4. 検査週間予定表

	午前	午後
月曜日	上部消化管内視鏡検査 腹部超音波検査 心臓超音波検査	心臓超音波検査
火曜日	上部消化管内視鏡検査 腹部超音波検査	造影腹部超音波検査 (2/M) 頸部エコー 心臓超音波検査
水曜日	上部消化管内視鏡検査 腹部超音波検査	下部消化管内視鏡 治療内視鏡 心臓超音波検査
木曜日	上部消化管内視鏡検査 腹部超音波検査	下部消化管内視鏡 治療内視鏡 心臓超音波検査
金曜日	上部消化管内視鏡検査 腹部超音波検査	下部消化管内視鏡 治療内視鏡 頸部エコー 心臓超音波検査



内視鏡風景



腹部エコー



RFA機器



RFA画像



RFA施行風景

- * 緊急内視鏡や緊急治療処置などは適時施行しています。
- * 午後より腎生検(年間10例前後)、肝処置(肝生検、肝癌局所治療、年間50例前後)など処置あります。
- * 他科の手術・処置の見学も可能です。
- * 心臓超音波は年間350-400件、腹部超音波は年間1000-1100件、造影超音波検査は年間20件、甲状腺エコー年間50件、上部消化管内視鏡は年間2000件強、下部消化管内視鏡年間200-250件、内視鏡的胃ろう造設術年間25-30件施行しています。

よくある質問(？)

①交通

国道42号使って車で15分前後。JR紀勢本線(きのくに線)海南駅より徒歩10分
阪和自動車道なら海南インター降りて北へ5分です。

②住居

官舎は現在埋まっています。医大より遠くないので大丈夫かな(？)。

③昼食

お弁当頼めます(1食500円前後)。病院内に売店, 近くにコンビニやガストがあります。

④当直

希望制です。やる気があればいくらでも。

⑤業務

指示書きなど全て手書きです(新病院では電子カルテですが)。PHSで連絡。
入院主治医を指導医とともに担当。救急対応も指導医としていただきます。
毎週金曜日新患カンファレンス。1日に数回指導医と患者カンファします。
空いた時間は検査・処置・他科の見学など自由にどうぞ。

⑥手技

希望があれば指導医の許容範囲で積極的にどうぞ。
点滴・静脈注射・採血などは看護師さんがしてくれます。

当院で研修された先生へのアンケート

当院で2011年3月に研修された研修第1号の先生です。
研修中は良くがんばっていました。
アンケートへのご協力ありがとうございました
(原文のまま)

Q. 海南市民病院の第1印象をお聞かせください。

A. たくさんの人から「あそこはやばいくらい古い」と聞いておりましたので、覚悟して
いました。が、来てみるとほんとに古くて昔の映画に出てくるみたいな病院で驚きました。
でも、小さい頃に通院したことのある地元の古かった病院を思い出し、すごくなつかしく
感じました。いい意味でレトロな雰囲気があって映画のロケ等に使えると思うので
ロータリー部分などは保存してはどうかと思います(笑)。

Q. 院長先生の第1印象をお聞かせください。

A. 初日には、院長先生にお出迎えいただき、海南市民病院のスタッフの皆様の温かさを
感じました。院長先生は温厚そうな方というのが第1印象でした。実際、研修内容や
処遇について常にお気づかいはいただきました。

当院で研修された先生へのアンケート

Q. 指導医はどうでしたか。

A. 内科の基本的な考え方や手技にはじまり、医師としての心構え、将来のこと等、多岐に渡り、ご指導頂きました。常にどうしたらより良い医療となるか、病院のこと、スタッフのこと、地域のことをいつも前向きに考えておられます。研究熱心でもあり、臨床・研究のバランスをうまくとられており、研修医には理想の先生だと思います。

Q. 環境(他科医師・スタッフ・設備)はいかがでしたか。

A. 他科の先生も気軽に声をかけてくださり、休憩室ではいろいろと役立つ話を聞かせていただいたりしました。また外来の診療に見学に来るように声をかけてくださり、超多忙にもかかわらず丁寧に解説していただき、手技を教えていただきました。看護師さんをはじめ、検査室のスタッフや薬剤部の方々とは非常に距離が近く、患者さんの病態にあわせて臨機応変に検査などの対応をされ、迅速に治療していくこの病院の努力に頭が下がりました。また事務の方々や地域連携室の方とも距離が近く、お茶をいただいたりとお世話になりました。

当院で研修された先生へのアンケート

Q. 研修を通じてチーム医療は学びましたか。

A. 看護師さんをはじめコメディカルの皆さんのチームワークのすばらしさには驚きました。外科だからとかないかだからとかいった垣根はいっさいありません。先生方も協力し合っています。病院全体でいい医療をしようとする意気込みが感じられました。

Q. 研修を通じて地域医療の連携の現状は学びましたか。

A. まずは地域連携室に傍の病院から、どのような依頼が来るのかと言うこと、次に紹介状の書き方について今まで医大から患者さんを紹介するという立場から紹介いただくという立場になった時に、どのようなことが大切なのか、非常に勉強になりました。また、地域で密着した医療を目のあたりにすることで医療の様々な側面を考えることができました。

当院で研修された先生へのアンケート

Q 当院の研修は医師として今後の役に立ちますか。

A. 日々、学ぶことが多くて、毎日があっという間に過ぎ去り、非常に充実した研修でした。

Q. 当院の研修は後輩医師に勧められるものでしたか。

A. 非常にコンパクトに凝集されており、かつそのレベルは高く、特に研修の自由度が大きい点で非常にお勧めいたします。

* 当院で研修された先生から今後研修に来られる方へのメッセージを配布しています。



スタッフ一同、皆さんの研修を心よりお待ちしております。

